

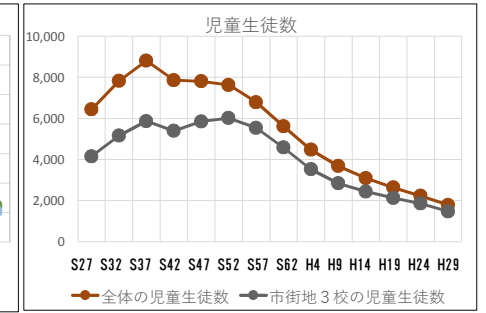
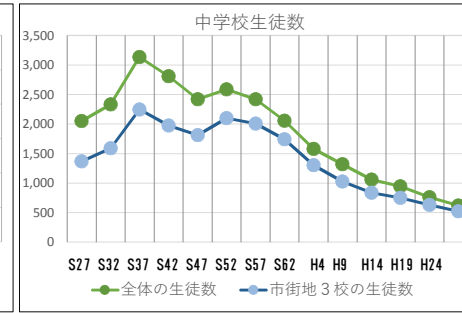
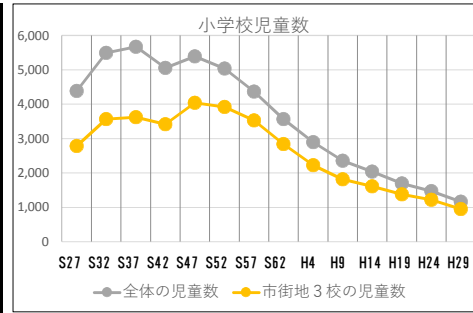
◎市街地地区適正配置に係る関係者への対応状況

月日	内 容	場 所
H28. 4. 13	柏陵中学校PTA理事会 父兄6名・学校関係者2名出席 計8名	柏陵中学校
H28. 4. 14	光洋中学校PTA二役会議 父兄7名・学校関係者2名出席 計9名	光洋中学校
H28. 4. 15	北斗小学校PTA三役会議 父兄5名・学校関係者2名出席 計7名	北斗小学校
H28. 4. 15	成央小学校PTA二役会議 父兄6名・学校関係者2名出席 計8名	成央小学校
H28. 4. 18	花咲小学校PTA二役会議 父兄6名・学校関係者2名出席 計8名	花咲小学校
H28. 4. 20	啓雲中学校PTA理事会 父兄25名・学校関係者10名出席 計35名	啓雲中学校
H28. 6. 3	花咲港小学校PTA理事会 父兄10名・学校関係者8名出席 計18名	花咲港小学校
H28. 6. 16	花咲港連合町会 長屋会長に説明 町会関係者1名	花咲港小学校
H29. 6. 29	光洋中学校PTA会員説明会 PTA 22名	光洋中学校
H29. 6. 30	柏陵中学校PTA会員説明会 PTA 19名	柏陵中学校
H29. 7. 4	北斗小学校PTA会員説明会 PTA 36名	北斗小学校
H29. 7. 6	啓雲中学校PTA会員説明会 PTA 17名	啓雲中学校
H29. 7. 7	花咲小学校PTA会員説明会 PTA 9名	花咲小学校
H29. 7. 10	成央小学校PTA会員説明会 PTA 5名	成央小学校
H29. 7. 11	花咲港小PTA会員説明会 PTA 10名	花咲港小学校
H29. 11. 16	町内会説明会（北斗・柏陵校区） 参加者10名	総合文化会館
H29. 11. 17	町内会説明会（花咲・啓雲校区） 参加者12名	総合文化会館
H29. 11. 20	町内会説明会（成央・花咲港・光洋校区） 参加者14名	総合文化会館

根室市立小中学校の児童生徒数の推移（S27～H29）

年度	小学校				中学校				合計	
	学校数	全体	市街地3校	学校数	全体	市街地3校	児童生徒数	児童生徒数	児童生徒数	児童生徒数
		児童数	児童数		生徒数	生徒数				
S. 27	17	4,381	2,787	9	2,052	1,366	6,433	4,153		
32	18	5,490	3,564	9	2,330	1,589	7,820	5,153		
37	18	5,672	3,618	10	3,132	2,248	8,804	5,866		
42	18	5,052	3,415	9	2,810	1,974	7,862	5,389		
47	16	5,386	4,041	7	2,417	1,811	7,803	5,852		
52	15	5,035	3,916	7	2,589	2,098	7,624	6,014		
57	15	4,366	3,529	7	2,419	2,008	6,785	5,537		
62	15	3,564	2,837	7	2,056	1,741	5,620	4,578		
H. 4	14	2,891	2,222	7	1,581	1,303	4,472	3,525		
9	14	2,359	1,811	7	1,319	1,025	3,678	2,836		
14	13	2,035	1,606	7	1,059	836	3,094	2,442		
19	12	1,692	1,377	7	943	752	2,635	2,129		
24	12	1,470	1,220	7	759	632	2,229	1,852		
29	8	1,163	950	7	620	522	1,783	1,472		

注1 特別支援学級を含む
 注2 昭和35年までは根室中学の数値を記載
 注3 昭和42年までは花咲小、北斗小2校の数値を記載
 注4 昭和52年までは光洋中、柏陵中2校の数値を記載



根室市立小中学校適正配置計画の策定（方針含む）経過

策定年月	計画期間	学級規模	対象校	計画の概要
平成12年12月	定めなし	【市街地】 小中とも12～18学級 【郡部】 小6～11、中3～11学級	全小中学校	短期的：和田・幌茂尻地区の統廃合に着手する 中期的：和田・幌茂尻地区以外の郡部校の適正化を図る 長期的：市街地区の学校適正化を図る ただし、厚床、落石、和田、歯舞地区に小中学校1校ずつ残す
平成17年5月	平成17年度 ～平成26年度	小12～18学級 中6～18学級	花咲港小学校 昆布盛小学校 温根元小学校 共和小学校	近隣の学校と統合 落石小学校と統合 華岬小学校と統合
平成23年2月	平成23年度 ～平成27年度	小12～18学級 中9～18学級	花咲港小学校 昆布盛小学校 共和小学校 華岬小学校 瑤瑠瑠小学校 温根元小学校 啓雲中学校	成央小学校と統合 落石小学校と統合 望ましい学校数は1校とし、適正な学校配置について検討を行う 啓雲中学校を廃止し、2校とする
平成28年2月	平成28年度 ～平成32年度	小12～18学級 中9～18学級	花咲港小学校 光洋中学校 柏陵中学校 啓雲中学校	成央小学校と統合 中学校3校を1校に統合

根室市立小中学校適正配置計画（概要版）

全国的な少子化の進展に伴い、当市においても児童生徒数は減少の一途をたどっており、教育委員会では将来的な児童生徒の減少に対応し充実した教育環境を確保するため、平成22年度に小中学校の学校規模の適正化と適正配置に取り組むための基本的な考え方を、「根室市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」として取りまとめるとともに、本方針に基づく「根室市立小中学校適正配置計画」を策定し、市街地以外の学校の適正配置を推進してきました。

しかしながら、平成22年度に推計した平成27年度の児童生徒数、1,800人と比べて、実際の平成27年度の児童生徒数は1,699人、101人の減少となっており、5年間で5.6%、さらに児童生徒数の減少が進行しています。

また、小中学校の校舎・体育館の全体面積の67.2%が築40年以上と老朽化しており、特に市街地地区7小中学校ではその割合が

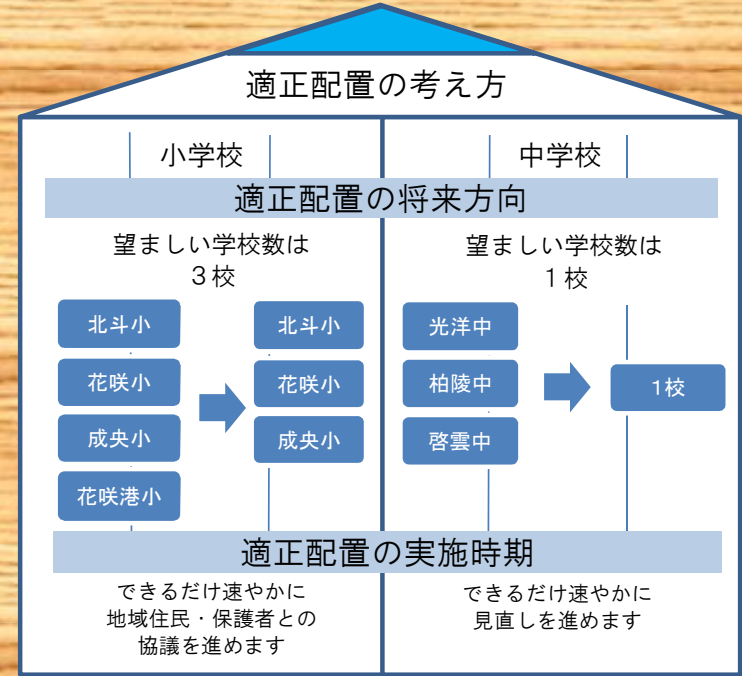
79.4%となっていることや、学校施設の耐震化、大規模改修等への対応など、子どもたちが安心して学ぶことができる教育環境の充実や、施設の適正な維持管理に課題が生じております。

さらに、北海道教育委員会の高等学校配置計画では、中卒者数の減少により教育水準の維持向上と教育環境の充実を図るため、根室西高等学校を平成29年度から募集停止しており、市内の高等学校は平成31年度からは1校となる予定となっています。

こうした状況を踏まえ、根室市教育委員会では平成27年8月に市街地地区1,657世帯を対象に『市街地小中学校の適正配置に関わるアンケート調査』を実施し、その結果を勘案しながら、このたび、新たに市街地小中学校を対象とした『根室市立小中学校適正配置計画』を策定いたしました。

概要

目的	○学校規模の適正化と 教育環境の向上
期間	○平成28年度から平成32年度 までの5年間
対象校	○小学校：北斗小学校・花咲小学校・ 成央小学校・花咲港小学校 ○中学校：光洋中学校・柏陵中学校・ 啓雲中学校



平成27年8月実施のアンケート結果の概要

<学校規模>

・基本方針で適正規模とする小学校「1学年あたり2～3学級」、中学校「1学年あたり3～6学級」を望む回答が、保護者世帯で小学校54.2%、中学校61.5%あること、一般世帯においても適正規模を望む声が多いこと、特に中学校でその声が多いことが明らかとなりました。

・基本方針で小規模とする「1学年1～2学級」を適切と回答した方の理由では、『きめ細かな教育を受けることができること』が多かったことから、今後とも、少人数学級の実践や学力向上等補助教員の配置による習熟度別授業の実施などを継続し、きめ細かな教育を推進していくことが求められています。

<通学>

・児童生徒に望ましい通学時間は30分以内、通学距離は概ね3kmまでという回答が多い結果となりましたが、その一方で、スクールバスやJR等を用いた場合は6km以上となっても良いという意見が多いことも明らかとなりました。

【参考】児童生徒数の将来推計

区分	平成27年5月1日現在				平成32年度推計		計画後の学校規模		学校数の増減
	学校数	学校名	児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数	
小学校	4校	北斗小	349人	12学級	323人	12学級	323人	12学級	▲1校
		花咲小	272人	12学級	210人	7学級	210人	7学級	
		成央小	410人	13学級	387人	12学級	405人	12学級	
		花咲港小	17人	3学級	18人	3学級	405人	12学級	
	計	1,048人	40学級	938人	34学級	938人	31学級		
中学校	3校	光洋中	219人	8学級	229人	6学級	524人	15学級	▲2校
		柏陵中	204人	6学級	164人	6学級			
		啓雲中	157人	6学級	131人	5学級			
計	580人	20学級	524人	17学級	524人	15学級			

※特別支援学級の児童生徒数、学級数は含めない。網掛けされた学校は適正配置の対象校である。

【参考】望ましいと考える市街地地区小中学校規模に関するアンケート結果

[小学校]

区分	保護者世帯		一般世帯	
	人数	割合	人数	割合
1学年1～2学級（小規模）	72人	37.5%	63人	28.3%
1学年2～3学級（標準規模）	104人	54.2%	123人	55.2%
1学年4学級以上（大規模）	13人	6.8%	27人	12.1%
無回答	3人	1.6%	10人	4.5%
計	192人		223人	

[中学校]

区分	保護者世帯		一般世帯	
	人数	割合	人数	割合
1学年1～2学級（小規模）	70人	36.5%	56人	25.1%
1学年3～6学級（標準規模）	118人	61.5%	154人	69.1%
無回答	4人	2.1%	13人	5.8%
計	192人		223人	

【参考】望ましいと考える小中学生の通学時間に関するアンケート結果

区分	保護者世帯		一般世帯	
	人数	割合	人数	割合
15分以内	44人	22.9%	31人	13.9%
30分以内	129人	67.2%	152人	68.2%
45分以内	15人	7.8%	22人	9.9%
60分以内	3人	1.6%	5人	2.2%
無回答	1人	0.5%	13人	5.8%
計	192人		223人	

※割合は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%を超える場合があります。

根室市立小中学校適正配置 Q&A

Q1 そんなに中学校の状況は厳しいの？

- 小中学校の先生は、「基礎定数」として学級数を根拠に国の法律に基づき配置されますが、教科ごとに専門の教員免許を持った先生の配置が必要な中学校では、生徒数が減って学級数が少なくなると配置できる先生の数がどんどん減って、生徒の教育環境や先生の体制、学校運営に支障が出てきます。
- 教育委員会では、中学校の9教科全てに、中でも授業時間数の多い主要5教科に必要な専任の先生を配置するため、中学校では最低でも9学級の学級数が必要と考えています。

●注意！

学校には、「基礎定数」の他に指導方法の工夫改善や通級対応など、個別の教育課題に対応するために「加配定数」として教員が配置されています。

Q2 中学校の適正規模を9学級以上としているが、その理由は？

- 国の法律では、中学校の先生は教科ごとの教員免許状が必要とされ、中学校では9学級の場合、校長先生、教頭先生を除き14名の先生が配置されることから、技能4教科を含めて9教科に専任の先生を配置し、さらに授業時間数の多い主要5教科に複数の先生の配置が可能となります。
- また、授業ばかりではなく、生徒数が増えて部活動の選択肢の幅を広げたり、先生の負担を軽減し生徒に向き合う時間を持つことができるなど、適正規模を確保することによって教育環境の改善、充実を図ることができます。

※技能4教科
＝音楽、保健体育、美術、技術・家庭をいいます。

Q3 9学級を下回っている市街地の中学校は、実際にどうやって授業を行っているの？

- 平成28年度で、3中学校の普通学級の数、光洋中が7学級、柏陵中が6学級、啓雲中が6学級で、いずれも適正規模を下回り14名の先生は配置されていませんが、特例として北海道教育委員会の許可を得て本来の教員免許外の教科を担当する免許外教科担任や、特別支援学級の担当の先生が普通学級の授業を行うなど、先生方の努力をはじめ学校全体の協力体制があって、9教科に担当の先生を配置して授業を進めている状況です。

Q4 いきなり1校ではなく、2校にすることはできないの？

- 教育委員会による児童生徒数の推計では、平成32年度には市街地の3中学校の合計の生徒数は524人、学級数は15学級と見込んでいます。
- こうした状況の中では、仮に2校とした場合であっても、最低でも必要とする9学級を確保することが難しく、引き続き、生徒の教育環境や先生の体制、学校運営などに支障が出るものと考えています。

Q5 市が独自に先生を配置して、学級数を増やすことはできないの？

- 適正配置計画では、国の法律に基づき、小学校1年生は35人学級、それ以外は40人学級を前提として学級数を試算し、市街地の小中学校の配置について計画を取りまとめました。
- 文部科学省では、平成23年度から導入した35人学級の拡大を検討していますが、そのためには大幅に教員数を増やすことが必要となるため、財政的な理由などから現時点では難しい状況にあり、根室市が単独で行うのも同様に難しいものと考えています。

Q6 保護者を対象にアンケート調査を実施したけど、その結果は？

- 15歳以下の子どもがいる世帯といない世帯を、市街地の7小中学校の校区から、それぞれ無作為抽出した1,657世帯を対象に調査を実施しました。
- その結果、きめ細かな教育を受けることができる小規模校が望ましいとした意見も一部ありましたが、小学校、中学校のいずれも、また、子どものいる世帯もいない世帯も、適正規模(小学校12学級以上、中学校9学級以上)の学校を望ましいとする回答が6割以上となっています。

Q7 1つになる中学校は、どこになるの？

- 現時点の推計では、新たな中学校は15学級規模になるものと見込まれ既存の3中学校のいずれかを利用するにも施設面で無理があります。
- また、いずれも築後35年を経過して老朽化が進んでいることから、平成30年度をもって廃校予定である北海道根室西高校について、統合後の中学校として利活用する方針であり、市は北海道教育委員会と協議を行っています。
- ただ、その場合であっても、やはり教室数が不足し増改築が必要となりますが、新築と比べると費用は大きく削減することができます。



Q8 学校が統合で1つになると通学距離が遠くなるのでは？

- 国では、中学校の通学距離は概ね6 km以内を基準としておりますが、現在もその基準を超える遠距離通学者に対し公共交通機関利用の場合の通学費に対する補助制度の実施や、公共交通機関がない場合はスクールバスの運行などにより子どもたちの遠距離通学の負担を軽減しています。
- 北海道根室西高校の校舎を活用した場合は、特に、光洋中と啓雲中の校区の生徒は通学距離が遠くなりますが、新たに設置する中学校と協議して自転車通学やバス通学を利用しながら負担の軽減を図っていきます。

Q9 学校が統合で1つになると、学校が荒れて生徒指導が大変では？

- 中学校では昭和54年の別当賀中学校の統合が最後ですが、従来から小中学校の統合にあたっては子どもたちを中心として考えながら、事前に関係する学校間の交流や連携、統合後にあっては学校全体で子どもたちへの適切な対応を最優先に行い進めてきました。
- 円滑な統合に向けて、統合後の学校における児童生徒の学習・生活指導を充実させるための国の教員加配を得て、生徒指導部をはじめとする学校体制の強化につなげながら万全の態勢を整えていきます。

Q10 計画どおり中学校が1つになると、生徒にとって何が良くなるの？

- クラス替えを契機として生徒が意欲を新たにして、新たな人間関係を構築する力を身に付けることができます。
- また、全ての教科で専門の先生の授業を受けることができることから、より授業内容の充実がはかられ学力の向上に繋がるとともに、現状では野球やバレーボールなどのチーム・スポーツは生徒数から活動に制約がありますが、統合後は部活動の種類が限定されることなくチーム・スポーツを含めた多様な選択肢の中から部活動を選ぶことができます。



Q11 学校の統合が進むと先生の数が減って、根室市の人口も減るのでは？

- 教育委員会が行った試算では、平成 32 年度に統合した場合、平成 27 年度と比べて先生の数は 15 名減ると試算しており、家族も含めるとさらに人口が減少することが予想され、人口減少も根室市の大きな課題となっています。
- しかし、人口と同様に児童生徒数の減少に伴って悪化する小中学校における教育環境について、その改善、充実をはかり学校教育の目的をより良く実現するために適正配置を進めるものであり、人口減少を理由に何もせず傍観しているべきではないと考えています。

Q12 統合後の中学校の校舎は、どうなるの？

- 「根室市公共施設等総合管理計画」に基づいて、廃校後の校舎や屋内体育館の利活用について検討を行いますが、現在の 3 中学校は、青少年センターが手狭であることから、曜日により使用種目を定めて屋内運動場を利用できる学校開放事業や、スポーツ団体等の目的外利用で多くの市民が屋内体育館を利用している状況にあります。
- また、3 校とも災害時の指定避難所の指定を受けていることもあり、当面、廃校後も継続して施設を維持していくことが必要と考えています。

※「根室市公共施設等総合管理計画」については、市ホームページをご覧ください。



Q13 市街地の中学校となると校区も広く保護者の数も多い。 どうやってみんなの意見を聞くの？

- 今後、関係する小中学校の PTA に、適正配置計画の内容について説明会の開催をお願いし、保護者へ教育委員会の方針を説明するとともに、説明会に出席できない保護者には郵送で意見をいただく方法を考えております。
- また、PTA への説明終了後は、関係小中学校の校区の町内会にお願いして、同じく説明会を開催し、教育委員会の考え方を説明し理解を求めていきます。

Q14 市街地の小学校は 3 校そのままとしているが、その理由は？

- 小学校は、3 校とも適正規模を下回っている中学校とは異なり、3 校の中でも花咲小学校の学級数が減少して小規模化が進んでいるものの、他の 2 つの小学校は適正規模である 12 学級以上を維持することが見込まれることから、中学校の適正配置を最優先に取り組みこととしています。
- 小学校にあっては、学級担任が全ての授業を受け持つ学級担任制であることや低学年の通学距離の問題などを考慮して、当面、現在の小学校を維持することとしています。今後の児童数の推移を見極めながら適切に判断していかなければなりません。

Q15 花咲小学校が残るのであれば、校舎や屋体が古くなって雨漏りもしているのを直してもらいたい。

- 花咲小学校は、老朽化が進むとともに耐震化も必要ですが、鉄骨などの構造部分の腐食なども一部確認されており延命化は難しいものと考えています。
- 将来的な小学校統合の必要性も見据えた新たな小学校の設置を見据えて、花咲小学校に附属する学校給食センターを廃止するとともに、新学校給食センターの建設と併せて、今後もそれらの実現に向けて、さまざまな方法について検討していきたいと考えています。

Q16 根室西高等学校は、そのまま中学校として使えるの？

- 統合後の中学校は、15学級規模となると見込んでおり、根室西高等学校は9学級ですので普通教室が不足しますし、普通教室だけではなく理科室などの特別教室も足りません。
- また、高校には特別支援学級がないので、特別支援学級の教室が不足しますし、配送された学校給食を校内で一時保管するパントリーなどの学校給食用設備もありませんので、校舎の増改築が必要となります。
- しかし、校舎や屋内体育館、グラウンドを新たに整備するのと比べると、費用は4分の1程度となります。

Q17 根室西高等学校が統合後の中学校となると、子どもの通学が遠くて大変になる？

- 現在も根室西高等学校の生徒は、市内全域からバスや自転車を利用して通学しており、基本的には中学生も通学が可能と判断しています。
- 統合後の中学校と協議を行い、高校と同様にバスや自転車通学を許可することとし、また、統合により自宅からの通学距離が基準を超えた場合は、遠距離通学費補助制度の対象とし、保護者負担の軽減を図ります。

●遠距離通学費補助制度

通常、通学に必要な経費は保護者の負担ですが、原則として通学距離が小学校でおおむね4km以内、中学校でおおむね6km以内とする国の基準を超える場合は、保護者の経済的な負担軽減を図るため交通費の全部や一部を補助しています。

Q18 市街地以外の小中学校のように、スクールバスは走らせないの？

- 市街地以外の小中学校の統合の場合は、通学に使える路線バス等の公共交通機関がないことから、スクールバスを運行していますが、市街地については現在も路線バスを利用し高校生が通学していることから、スクールバスの運行は予定していません。

